

2024年12月実績概要（メモ）

（2025. 1. 23）

定修の集中年にあたったことや需要不振から、2024年のエチレン生産は3年連続しての減少。

1. 生産動向

イ) エチレン 467,600トン

前月比 +9.1% (+39,000トン)
 前年同月比 ▲1.9% (▲8,900トン)

生産増減に係る諸要因	<前月比>	<前年同月比>
日数増減	+ 3.3%	-
定修要因等	+ 4.1%	-
能力増減	-	-
稼働率変動	+ 1.7%	▲ 1.9%
生産増減率	+ 9.1%	▲ 1.9%

稼働プラントの実質稼働率試算：前月77.6%* → 当月78.7% ← 前年同月80.3%

定修プラント：前月1社1プラント → 当月なし ← 前年同月なし

2024年暦年生産量 4,982.1千トン 前年比 ▲6.3%

ロ) 主な石油化学製品

前月比は、日数増加と定修規模の差等からLDPE、HDPE、SM、塩ビ樹脂、塩ビモノマー、MMAモノマー、SBR、BRなどの11品目がプラス。PS、EO、EGなどの6品目はマイナスとなった。

前年比は、定修規模差や稼働率要因等から、LDPE、PS、塩ビ樹脂、塩ビモノマー、EO、EG、AN、SBRなどの12品目がマイナス。HDPE、SM、MMAモノマーなどの5品目はプラスとなった。

2. 樹脂の生産・出荷状況（LDPE、HDPE、PP、PS）

イ) 生産

前月比は、日数増加や定修規模の縮小等もあり、HDPEが大幅な伸びとなり、LDPE、PPとともにプラスとなった。PSは定修規模差からマイナスとなった。

前年比は、主に稼働率要因等からLDPE、PSはマイナス。HDPEはプラスとなった。

ロ) 国内出荷

消費マインドは、前月に比べて暮らし向きや耐久消費財の購入面で低下が見られ、マインドとしては改善に足跡が見られている。国内の生産活動は、前月の11月時点では生産用機械、自動車等で低下が見られたが、12月の予測では、生産用機械を中心に増加が見込まれている。但し、国内の生産活動のトレンドは強気優勢が維持されつつも直近では幾分その姿勢は弱めとなっている。

汎用樹脂の出荷は、前月比は、年末休暇に伴うユーザー側の稼働日数の減少から、LDPE、HDPE、PP、PSの4樹脂ともにマイナスとなった。前年比は、LDPEはマイナス幅が縮小しほぼ前年並みとなったが、HDPE、PP、PSはマイナスとなった。

分野別の出荷状況としては、フィルム等の包材分野は、前年比でLDPEはプラス、HDPE、PPは若干のマイナス、PSはマイナス幅がやや大きくなった。包材以外の分野では、前年比で、HDPEの射出成形分野、中空成形分野が辛うじて前年並みとなったが、これら以外では、各樹脂ともほとんどの出荷分野で前年割れとなった。

ハ) 輸 出

原料市況面は横這い乃至若干の下落となったが、アジア域内での引き合いは弱く調達側では当用買いの姿勢となっている。前月比で、LDPE、HDPEがプラス、前年比でもLDPE、PSの増加程度に留まっている。

ニ) 在 庫

在庫量は、前月に対して、LDPE、HDPE、PPで増加し、PSは減少した。在庫率(季節調整済)は、LDPE、PPは前月並み、HDPE、PSは若干低下した。在庫水準としては、LDPEはやや高め、HDPEは高め、PPはほぼ適正、PSは適正となっている。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率 (単位:ヶ月)	
		11月末	12月末
LDPE	+ 11,800	3.4	3.4
HDPE	+ 9,400	3.8	3.7
P P	+ 9,800	3.1	3.1
P S	▲ 2,100	1.8	1.7

前月からの修正を*で付記

以 上